

HARUTO II f t p

取扱説明書 Version 1.2



はじめに

目次

1	はじめに
2	ハードウェア詳細
3	動作確認リスト、Bonjour について
4	各部詳細及び接続方法
5	起動・終了方法
6	データ収集方法
7	ブラウザでの操作
8	ブラウザでの操作(Overview)
9	ブラウザでの操作(VP2Data)
10-14	ブラウザでの操作(System)
15	USB メモリでのデータ取得
16	注意事項
17	ファームの更新、連絡先

HARUTO II -ftp をお買い求めいただきありがとうございます。
本製品は Davis 社気象観測システム VantagePro2 を対象とし、そのロガー機能を拡張することを目的とした製品です。
VantagePro2 の持つ優れたロガー機能を活かしつつ、その利便性を高めることを目指しています。

特徴として次のようなことが挙げられます。

- ・ 高性能・低消費電力な小型 CPU ボードと、組込み Linux の組み合わせによる高い信頼性と拡張性を実現。
- ・ コンパクトな本体に大容量 256MB の内蔵フラッシュメモリを搭載。
(1 件 52Byte のロガーデータを 1 分間隔で取り続け、約9年分の容量)
- ・ USB、LAN 端子を搭載し USB メモリやブラウザを介したデータ取得を実現。
- ・ Davis #6510SER/USB そのいずれにも使えるよう対応しました。



ハードウェア詳細

プロセッサ	CirrusLogic EP9307 ARM920T コア採用 ・ARM9TDMI CPU ・16kByte 命令キャッシュ ・16kByte データキャッシュ ・Thumb code(16bit 命令セット)サポート
システムクロック	CPU Core クロック: 200MHz BUS クロック: 100MHz 源発振クロック: 14.7456MHz
メモリ	SDRAM: 32MByte(16bit 幅) FLASH: 8MByte(16bit 幅) 拡張 NAND フラッシュメモリ(256MB)
LAN インターフェース	10BASE-T/100BASE-TX
シリアルポート	3 チャンネル(調歩同期, Max: 230.4kbps) UART1: VantagePro2 接続用 ・RS232C レベル入出力 ・フロー制御ピン有り(CTS, RTS, DTR, DSR, DCD, RI) UART2/UART3: ・3.3V I/O レベル ・フロー制御ピン無し
汎用入出力(GPIO)	16bit
USB (Host)	2.0 Full Speed (12Mbps) 2 チャンネル, Type-A コネクタ
タイマ	CPU 内蔵タイマ ・16bit 汎用タイマ: 2 チャンネル (1 チャンネルは Linux のシステムタイマに使用) ・32bit 汎用タイマ: 1 チャンネル ・40bit デバッグ向けタイマ: 1チャンネル
基板サイズ(mm)	75.0 × 50.0 (突起部含まず)
ケースサイズ(mm)	83.0 × 58.0 × 24.3 (突起部含まず)
電源電圧	DC5V±5%
消費電力	約 1.5W(USB デバイスの消費電力を除く)
使用温度範囲	0°C~60°C

動作確認リスト

付属コンバートソフト: Windows XP、2000、Me

本機内蔵ホームページ閲覧: Internet Explorer Ver.6 以降を推奨

USB メモリ: バッファロー、ELECOM 製品で動作確認。Sony 製 POCKETBIT USM-S 等一部製品を認識できません。

Bonjour について

「Bonjour」について

「Bonjour」は、ゼロコンフィギュレーション・ネットワークとも呼ばれている、IP ネットワーク上のコンピュータ、デバイス、およびサービスを自動的に検出するサービスです。「Bonjour」では、業界標準の IP プロトコルを用いて、既存の IP ネットワーク上に接続されたデバイスが相互に自動的に検出されます。IP アドレスの設定に関係なく本機を、検出できる便利な機能です。

Bonjour のインストール

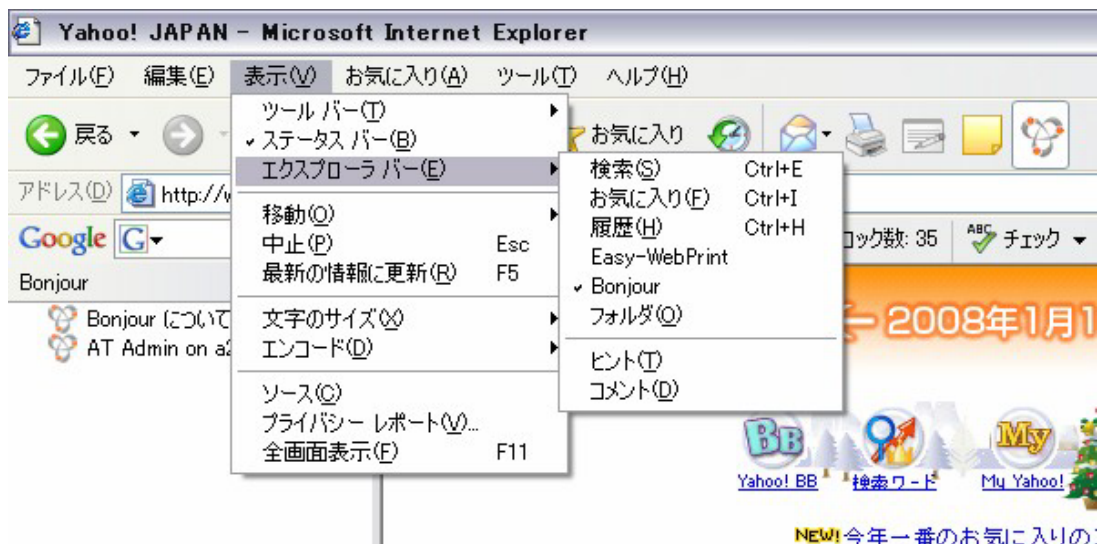
Windows で Bonjour を利用するには、Bonjour for Windows をインストールする必要があります。このソフトウェアは二次配布が許可されていないため、付属できません。アップル社の WEB サイトからダウンロードしてください。

アップル - サポート - ダウンロード - Bonjour for Windows

<http://www.apple.com/jp/ftp-info/reference/bonjourforwindows105.html>

ダウンロードした「BonjourSetup.exe」を実行し、表示される画面に従って、本機へアクセス予定のパソコン(本機と同一 LAN 内に接続したパソコン)へ、適切にインストールしてください。

インストール完了後、Internet Explorer を起動し、下図のようにメニューバーから Bonjour を表示させるか、アイコンバーのアイコン(下図右端のアイコン)を利用し、Bonjour バーを表示(下図左下近辺のような枠が出てきます)させてください。本機の電源が入り、ネットワークへ正しく参加していれば、この枠に本機の名前が登場します。それをダブルクリックしていただくと、本機内蔵ホームページへアクセスできます。勿論、本機の IP アドレスがわかっている場合は、IP アドレスによるホームページへのアクセスも可能です。



各部詳細及び接続方法



本体上面には、タクトスイッチ、LED ランプ(緑: 電源ランプ、赤: ステータスランプ)、上記写真で、左側面に LAN ポート(RJ45)と USB ポート(Type A、2個)、右側面に電源コネクタ(5VDC)と RS232C コネクタがあります。

以下、説明は#6510SER シリアル接続を対象に書かれています。

#6510USBの接続は、2つあるUSBポートのそのいずれに接続いただいてもOKです。

本機と Vantage の接続を行う前に、Vantage の設定を完了させておいてください。また、運用開始時には、Vantage の電源を先に投入し、Vantage の起動を確認してください。

Vantage コンソールとは、Vantage 付属の RS232C ケーブルで接続し、抜けないようにネジでしっかり固定してください。次に LAN ケーブルを接続し、最後に電源コネクタを接続してください。電源コネクタを接続し電源を供給するとシステムが起動します。システム起動時に、Vantage からの時間取得、インターネットからの時間取得を試み、本機時間を設定しますので必ず、この順番で接続を行ってください。



起動・終了方法



電源コネクタを接続し、電源を供給すればシステムは起動します(上図)。電源ランプ(緑色 LED)とステータスランプ(赤色 LED)の両方が約30秒間点灯後(システムブート中)、ステータスランプだけが消え、電源ランプのみの状態(下図)になると起動が完了です。この状態を確認後、同一 LAN 内のパソコンのブラウザにより、動作確認を行ってください。



終了は電源供給を停止する(電源コネクタを抜く)だけです。ただし、ステータスランプ(赤色 LED)点灯中は、内部処理が起動していますので電源供給を停止しないように気をつけてください。機器の破壊や、保存データの消失につながりますので、**必ず、赤色 LED の消灯を確認してから電源供給を停止してください。**

データ収集方法

本機は起動後、決められたスケジュールに基づき、Vantage コンソールからのデータ収集を行います。

毎時01分 Vantage コンソールよりロガーデータの収集

Vantage で設定されたロガー周期(1分、5分、10分、15分、30分、60分、120分)により、Vantage 内のメモリにデータが蓄積(最大2880件、1分間隔で約2日)されます。このデータに対し、本機は1時間おきにデータの収集を行います。この結果、本機メモリ内のデータファイルには、**1時間毎(毎時01分)に最新のデータが追記**されます。更新されたデータ(前回収集時の最終データより新しいデータ)のみの収集を行うので、重複してデータが保存されることはありません。データ収集中は赤色 LED が点滅します。

収集されたデータは、本体に内蔵された NAND フラッシュメモリ(256MB)の **vp2bin.data** ファイルに、バイナリ形式で追記保存されます。このデータを、Microsoft 社の Excel など、利用可能な CSV 形式ファイル(テキスト形式)で取得するためには、次の3つの方法があります。

- 1、同一 LAN 内に設置されたパソコンのブラウザから、本機内部の Web サーバにアクセスし、**vp2bin.data** ファイルをダウンロードする。ダウンロードしたファイルを付属の専用ソフトウェアソフトで、CSV 形式ファイルに変換する。(説明書: 9ページを参照)
- 2、USB メモリを本機に接続し、認識後(赤色 LED ランプの消灯を確認)タクトスイッチを押してデータをコピーする。データのコピー方法は、USB メモリ内に用意した **vplogger_config** ファイルによって変更可能です。(説明書: 15ページを参照)
- 3、FTP プロトコルを用いてリモートサーバへ転送する。転送データはバイナリ形式となるため、1と同様に、CSV ファイルへの変換が必要です。(説明書: 12~13ページを参照)

本機で収集を行うデータは、全て Vantage コンソールで作成されるデータです。データ内のタイムスタンプは Vantage 側で作成されますので、データの時間管理は Vantage コンソール側で行ってください。backup ファイル名などに付加されるタイムスタンプのみ、本機の時間を利用しております。

vp2bin.data ファイルには、更新されたデータが追記されていきます。このため、ダウンロード後に、データの確認ができましたら、backup フォルダへ移動(ローテート)することをお勧めします。この操作を行うことで、vp2bin.data ファイルがリフレッシュされ、次回ダウンロード時に、前回ダウンロードで得たデータを重複して受け取る事が無くなります。

ブラウザでの操作

ブラウザ(Windows XP、IE6.0 以降推奨)で本機内蔵のホームページへアクセスしてください。本機は、出荷状態において DHCP(IP アドレス自動取得)の設定になっていますので、DHCP サーバが稼動するネットワークへ接続し、Bonjour を利用してアクセスしていただく方法が最も簡単です。Bonjour を利用されない場合は、DHCP サーバのリース情報を調べるなどで、本機が取得している IP アドレスを調べてください。URL の代わりに IP アドレスによるアクセスも可能です。LAN ケーブルを接続せずに(非 DHCP 環境で)起動した場合は起動時に、ゼロコンフにより IP アドレスが、169.254.*.* (不定)に設定されます。

本機内蔵ホームページへのアクセスに成功すると、下図の画面(トップページ)が現れます。

ホームページは Overview , VP2 data , System の3ページにより構成されており、一番上に見える、メニュー選択バーでページを切り替えます。

The screenshot shows a web interface with three navigation tabs: Overview, VP2 Data, and System. The Overview tab is active, displaying the following information:

ベースステーション情報(2008年6月17日13時17分現在)

IP アドレス : 192.168.1.100 (auto)
MAC アドレス : 00:11:0C:04:03:C0
ホスト名 : fptest1
ファームバージョン : SD-BASE 1.0.0 (BK-1.1)

VantagePro2 - NOW -
2008年06月17日13時17分10秒

気圧傾向(最新30時間) : 20
気圧(hPa) : 1008.3
屋内温度(℃) : 27.6
屋内湿度(%) : 45
屋外温度(℃) : 1802.6
風速(m/s) : 114
風速(10分平均,m/s) : 114
風向(N=0,E=90,S=180,W=270) : 32767
拡張センサ温度(℃) : 165 165 165 165 165 165
土壌温度(℃) : 165 165 165 165
葉温度(℃) : 165 165 165 165
屋外湿度(%) : 255
拡張センサ湿度(%) : 255 255 255 255 255 255
降雨強度(mm) : -0.2
紫外線量 : 255
日射量(W/m²) : 32767
降雨量(mm) : 0.0
降雨開始日付 : 2127-15-31
日間降雨量(mm) : 0.0
月間降雨量(mm) : 0.0
年間降雨量(mm) : 0.0
蒸発散量(mm) : 0.0
月間蒸発散量(mm) : 0.0
年間蒸発散量(mm) : 0.0
土壌水分量(centibar) : 255 255 255 255
葉湿度(0-15) : 255 255 255 0
内部アラーム : 0
降雨アラーム : 0
外部アラーム : 0.0
拡張温度アラーム : 0.0 0.0 0.0 0.0
土壌葉アラーム : 0.0 0.0
送信機バッテリーステータス : 0
コンソールバッテリー電圧(V) : 2.23
予報 : 3
日の出時間 : 05:42
日の入り時間 : 20:27

ブラウザでの操作(Overview ページ)

Overview はシステムの現在状況を見せる画面で、全体のトップページになっています。

1 段目: ネットワーク情報(IP アドレス、MAC アドレス、ホストネーム) が確認できます。

2 段目: Vantage のリアルタイムモニタ機能(LOOP コマンド)を利用した、Vantage システムの簡易モニタです。時間表示は、Vantage コンソールから取得した時間です。時間がずれている場合は、Vantage コンソールにて修正し、本機を再起動させてください。**保存データのタイムスタンプは、この時間が利用されるため重要です。**本機と Vantage コンソールとの接続がうまくいってない場合、ここにデータが表示されませんので、接続や設定などを再度見直してください。

The screenshot shows a web interface with a dark header containing three tabs: "Overview", "VP2 Data", and "System". The "Overview" tab is selected. Below the header, there are two main data panels. The first panel, titled "ベースステーション情報(2008年6月17日13時17分現在)", displays network information: IP アドレス: 192.168.1.100 (auto), MAC アドレス: 00:11:0C:04:03:C0, ホスト名: fbotest1, and ファームバージョン: SD-BASE 1.0.0 (BK-1.1). The second panel, titled "VantagePro2 - NOW -", displays a timestamp "2008年06月17日13時17分10秒" followed by a list of environmental and system metrics: 気圧傾向(最新30時間): 20, 気圧(hPa): 1008.3, 屋内温度(°C): 27.6, 屋内湿度(%): 45, 屋外温度(°C): 1802.6, 風速(m/s): 114, 風速(10分平均,m/s): 114, 風向(N=0,E=90,S=180,W=270): 32767, 拡張センサ温度(°C): 165 165 165 165 165 165 165, 土壌温度(°C): 165 165 165 165, 葉温度(°C): 165 165 165 165, 屋外湿度(%): 255, 拡張センサ湿度(%): 255 255 255 255 255 255 255, 降雨強度(mm): -0.2, 紫外線量: 255, 日射量(W/m²): 32767, 降雨量(mm): 0.0, 降雨開始日付: 2127-15-31, 日間降雨量(mm): 0.0, 月間降雨量(mm): 0.0, 年間降雨量(mm): 0.0, 蒸発散量(mm): 0.0, 月間蒸発散量(mm): 0.0, 年間蒸発散量(mm): 0.0, 土壌水分量(centibar): 255 255 255 255, 葉湿度(0-15): 255 255 255 0, 内部アラーム: 0, 降雨アラーム: 0, 外部アラーム: 0.0, 拡張温度アラーム: 0.0 0.0 0.0 0.0, 土壌葉アラーム: 0.0 0.0, 送信機バッテリーステータス: 0, コンソールバッテリー電圧(V): 2.23, 予報: 3, 日の出時間: 05:42, 日の入り時間: 20:27.

ブラウザでの操作(VP2 Data ページ)

VP2 Data ページは、内蔵 NAND フラッシュメモリ(256MB)に保存されたデータの一覧表示と、ダウンロードを行うためのページです。FTP ソフト的な画面構成になっています。

構成:

/vp2bin.data	Vantage ロガーデータファイル(バイナリ)
/registered_data	データ収集用情報格納ファイル(アクセス不可)
/backup/vp2bin_data.timestamp	vp2bin.data のバックアップフォルダ(初回自動作成)

本機出荷時点では registered_data のみが表示されます。本機と Vantage コンソールを接続し、最初の 01 分を迎えたところで、Vantage コンソールからのデータ収集を行い、**vp2bin.data** ファイルが作成されます。以降、毎時 01 分ごとに、更新データが **vp2bin.data** ファイルに追記されていきます。この **vp2bin.data** ファイルをダウンロード(リンクを左クリック、又は右クリックで対象をファイルに保存)していただき、付属のコンバータソフトで CSV 形式に変換し、ご利用ください。

ページ下部にある**ログファイルバックアップボタン**で、**vp2bin.data** ファイルを backup フォルダへ移動します。この操作を始めて行った時に backup フォルダは自動で作成されます。backup フォルダへ移動された **vp2bin.data** ファイルは、ファイル名に操作時点のタイムスタンプが付加されて、保存されます。backup フォルダへは、リンクをクリックすることで移動でき、バックアップデータのダウンロードや削除(**バックアップデータ削除ボタン**で一括削除のみ)が可能です。ブラウザのキャッシュの関係上、画面更新が必要な場合(操作をしても画面が更新されない場合)は上部の**画面更新ボタン**で画面をリフレッシュさせてください。

The screenshot shows the 'VP2 Data' page with three navigation tabs: 'Overview', 'VP2 Data' (selected), and 'System'. Below the tabs is a '画面更新' (Refresh) button. The main content area displays the 'Index of /storage/' with a table listing files and directories. Below the table are three buttons: 'ログファイルバックアップ' (Backup log files), 'バックアップデータ削除' (Delete backup data), and '全てのデータを削除' (Delete all data).

mode	links	bytes	last-changed	name
dr-x	3	0	Jan 1 1970	./
dr-x	7	1024	Dec 25 01:55	../
----	1	44	Dec 16 00:03	registered_data
-r--	1	216320	Dec 16 00:03	vp2bin.data

ログファイルバックアップ
バックアップデータ削除
全てのデータを削除

ブラウザでの操作(System ページ)

System ページは、本機のネットワークに関する設定変更を行うためのページです。

変更可能項目は

- ・ IP アドレスの設定(固定または DHCP による自動取得)
- ・ 固定アドレス時の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバ
- ・ Hostname

です。

メニュー選択バーの一番右端にある System をクリックすると、ベーシック認証用のダイアログが立ち上がり、ユーザ名とパスワードによる認証を求めてきます。出荷時のユーザ名とパスワードは次のようになっています。

ユーザ名: admin

パスワード: admin

それぞれを正しく入力し OK ボタンを押すと System ページへ入れます。

System ページには、サブメニューとして、Network、Password、Save & Load があります。



ブラウザでの操作(System ページ)

System ページのトップページは現在の設定値の表示画面です。それぞれの、設定にはサブメニュー選択バー(2段目のグレーのバー)を利用して移動してください。

Network : IP アドレスやホスト名の設定を行う場合。FTPの設定を行う場合。

Password : System ページへ入るためのベーシック認証用パスワードの設定を行う場合。

Save & Load : Network ページと Password ページで行った変更は、本機システムが稼動する RAM 上での変更です。このため、**設定変更を再起動後も反映させるためには、内蔵 ROM への保存(Save)が必要です。**

本機で利用している組込みシステムは、システム一式をイメージとして固め、本体内蔵の ROM に書き込んであります。電源投入と同時に、この ROM イメージが RAM 上に展開され、システムが実行されます。このため、システムの設定変更を行ったとしても、RAM 上に展開された設定ファイルを更新したにすぎません。設定した内容は一次的には、反映されますが、リブートを行うと、元の ROM イメージの設定に戻ってしまいます。そこで、設定ファイルの一部を保存できる、小さな ROM 領域を設けてあります。本体 ROM イメージ展開後に、その小さな ROM 領域を展開することで、一部設定ファイルを、ROM イメージに依存せず維持できます。ネットワーク設定やパスワード設定は、この領域を利用しており、設定変更後 ROM に Save(ROM への書き込み)した場合は、電源再投入後やファーム更新後も維持されることとなります。設定変更後、思ったような動作にならなかった場合には、Save を行う前に Load や再起動を行うことで、簡単に元の設定に戻すことができます。

ブラウザでの操作(System ページ)

Network

DHCP なら AUTO IP、固定 IP なら STATIC IP を選択してください。固定 IP はネットワーク管理者と相談して、他の端末と被らない様に設定してください。Gateway と DNS は、LAN 外へのデータ転送が必要な場合に設定してください。ネットワーク設定と FTP 設定は同時には行わず、それぞれ別々に設定し動作を確認してください。ご利用のネットワーク設定につきましては、ネットワーク管理者とご相談ください。ホスト名は、FTP 転送時のファイル名や USB メモリを利用したデータ回収時のフォルダ名に利用されますので、複数の HARUTO II を利用する場合などにそれぞれに別の名前をつけておくと便利です。



ネットワーク設定

自動取得(DHCP)

固定

IPアドレス

ネットマスク

ゲートウェイ (オプション)

DNSサーバ (オプション)

ホスト名

更新

キャンセル

FTP設定

サーバアドレス

リモートフォルダ

ユーザー名

パスワード

パッシブモード

*転送間隔

転送間隔

*転送時間

転送時間

FTP転送後データをバックアップフォルダへ移す

更新

キャンセル

ブラウザでの操作(System ページ)

FTP設定

サーバアドレス: 転送先のサーバアドレス(IP アドレス)

リモートフォルダ: ユーザのルートディレクトリからの相対パス

未入力の場合はルートディレクトリ(/)が自動設定されます。

ユーザ名: FTP ログインを行うためのユーザ名

パスワード: FTP ログインを行うためのパスワード

パッシブモード: サーバへの接続に PASV モードまたはパッシブモードが必要な場合この項目を ON にします。通常は OFF でご利用ください。

転送間隔

FTP転送を行う間隔を設定します。設定可能項目は

「毎日」「毎週土曜」「毎週日曜」「毎週月曜」「毎月1日」「毎月10日」「毎月20日」

時間は次の転送時間で設定します。

転送時間

転送時間を設定します。0～23時まで設定でき、分は5分に固定されています。

0時を選択した場合は、0時5分に転送が開始されます。

FTP 転送後データをバックアップフォルダへ移す

転送後バックアップ領域に移しておくことで、次回転送時に以前に転送したデータとの重複がなくなります。VP2 Data ページの「ログファイルバックアップ」ボタンと同様の処理を FTP 転送後に自動で行います。

- * **本機の時間(タイムゾーン)**は Vantage コンソールより取得しています。
設定した時間は Vantage コンソールに設定された時間に依存します。

ブラウザでの操作(System ページ)

Password

System ページへのアクセス認証用パスワードの設定を変更できます。ユーザ名は admin で固定されています。現在のパスワード、新しいパスワード、新しいパスワード(確認)を入力し更新ボタンを押して更新してください。

Overview	VP2 Data	System
----------	----------	--------

ネットワーク	パスワード	セーブ & ロード
--------	-------	-----------

パスワード設定

ユーザ名	<input type="text" value="admin"/>
現在のパスワード	<input type="password"/>
新しいパスワード	<input type="password"/>
新しいパスワード(確認)	<input type="password"/>

Save & Load

Network や Password で行った変更が正しく動作していることが確認できたら、ここで必ず **Save ボタン**を押して、ROM に設定情報を書き込んでください。ここで、Save しないと、再起動で設定が元に戻ってしまいます。Save を行うとファームの更新を行って設定は維持されます。Save ボタンで書き換えたシステム設定を、出荷状態に戻したい場合は、**Restore Default ボタン**でシステム情報をレストアしてください。この場合は、必ず再起動を行ってください。

Overview	VP2 Data	System
----------	----------	--------

Network	Password	Save & Load
---------	----------	-------------

Save and Load System Settings

現在のシステム設定をフラッシュに保存する

現在のシステム設定を破棄し、フラッシュに保存されている元の設定に戻す

現在のシステム設定を破棄し、初期状態の設定にする(システムの再起動が必要です)
システム情報を新しく生成しなおすため、再起動時が完了するまで数分必要です

System Reboot

システムを再起動する

USB メモリでのデータ取得

USB メモリでのデータ取得は、USB メモリを接続し、認識完了(赤色 LED の点滅が終了し消灯)を確認して、タクトスイッチを押してください。コピー中は、赤色 LED が点滅し、コピー終了で消灯します。これと同時に、USB メモリのマウントも解除します。アクセスランプの消灯を完全に確認してから USB メモリを抜いてください。

データ取得モードの変更

USB メモリでデータ取得を行う際に、取得モードを選択するための `vplogger_config` ファイルを利用できます。USB メモリのルートフォルダ(USB メモリをエクスプローラ等で開いたところ)に、`vplogger_config` ファイルを用意してください。`vplogger_config` は、Windows 標準のメモ帳などで編集可能です。フォーマット及び初期設定値(`vplogger_config` を用意しなければ下記の設定になります)は次の通りです。また、ファイル出力後 `vp2bin.data` ファイルを `backup` フォルダへ移動する操作は、スイッチを長押しする(赤色 LED の点灯を確認後離す)ことでも、選択可能です。

フォーマット : 要素名 + スペース + パラメータ

* 変更したいパラメータのみ変更してください。

出力ファイル名

VantageLogFileName vp2data

項目言語

JP: 日本語, ENG:: 英語, BOTH: 日本語及び英語

VantageLogLanguage BOTH

1つの CSV ファイルへ出力するデータ件数 最小: 1000, 最大: 60000

VantageLogFileMaxDataLine 60000

Vantage ロガーデータ出力モード

CSV: CSV 形式変換済ファイルのみ, BIN: バイナリ形式のみ, BOTH: CSV 及びバイナリ

ALL: CSV 形式 + バイナリ形式 + backup フォルダ内データ全て

VantageLogFileOutputFileType CSV

ファイル出力前に Vantage からのデータ収集を行う(2分程度の処理時間追加)

YES, NO

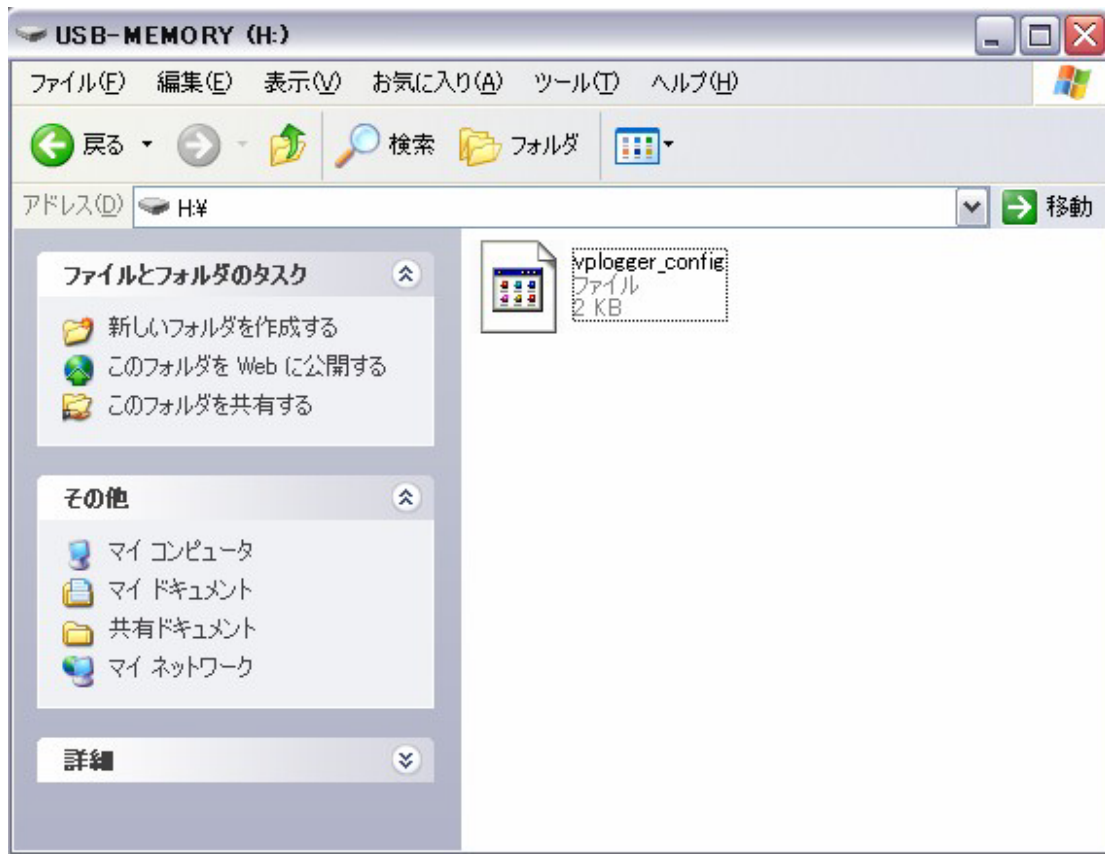
VantageLogNeedDMP NO

ファイル出力後 vp2bin.data ファイルを backup フォルダへ移動する

YES, NO

VantageLogNeedBackup NO

市販されている USB メモリをそのままご利用いただけますが、製品によっては認識できないものがあります。この場合、USB メモリ挿入後の認識中(赤色 LED が数回点滅)を経て、赤色 LED ランプが常時点灯になります。このようになる USB メモリは本機ではご利用できませんので、別の種類の USB メモリをご用意ください。この場合に限り、赤色 LED の点灯中でも USB メモリを抜くことができます。



注意事項

- ・ 電源 OFF や USB メモリの取り外しは、必ず赤色 LED の消灯を確認してから、行ってください。
- ・ 毎時 01 分のデータ収集時(約2分間)は本機ホームページへのアクセスが、不安定になることがあります。その場合、少し時間を置いてからアクセスしなおしてください。
- ・ Vantage の最短ログ一時間隔1分間隔でデータ取得を行う場合、毎時 01 分のデータ収集時間と重なる2～3件程度のデータを取りこぼすことがあります。

HARUTO II では、お客様のお声を反映し、より良いシステムへと成長を続けていくために、ファームの更新をお願いすることがあります。ファームの更新を行いますと、出荷後に発見されたバグの修正や、新機能の追加などが行われますが、これまでに設定いただいた設定や取得データは消えず、そのままご利用いただけます。作業は、USB メモリにファームファイルをコピーしていただき、ベース・ステーションのUSB端子に挿入し、数分お待ちいただくだけです。ファーム更新中に電源が切れますと機器の故障などが発生することがありますので、ファーム更新中(赤、緑、両方のLEDが点灯中)は電源を切らないようにお願いします。更新終了後に管理画面のトップページに表示されるファームバージョンやUSBメモリ内に作成されたログファイルで更新の確認ができましたら、作業は完了です。USBメモリ内のファームファイル及び更新ログファイルは作業完了後に削除してください。

最新のファームをコピーしたUSBメモリを、 ベース・ステーションのUSB端子へ挿入

↓

USB機器の認識中。赤色LEDの点滅(5秒程度)
認識成功: 赤色LEDが一旦消灯後ファーム更新開始で再び点滅開始
認識失敗: 赤色LEDが常時点灯(別のUSBメモリをご用意ください)

ファームの更新開始

↓

赤色、緑色LEDの両方が点滅(2分程度)

起動(ここからは通常の電源投入と同じです)

↓

赤色LEDの常時点灯(30秒～1分程度)

起動完了、USB機器の認識

↓

赤色LEDの点滅(5秒程度)後消灯

赤色LEDの消灯を確認してUSBメモリを抜く。

これで作業は完了です。管理画面のトップページに表示されるファームバージョンが最新になっているかを確認してください。